

令和 8年 7月 30日

小野市議会議長 様

派遣議員 安達哲郎

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日

2026年7月27日（月）～7月28日（火）

2 派遣議員

安達哲郎

3 派遣先

JIAM 全国市町村国際文化研修所

4 内 容

第2回市長村長等・議会議員特別セミナー

1日目 農と食と健康を守るためのサプライチェーンの再構築

泉大津市長 南出賢一

<内容>

テーマ “官民連携・市民共創”

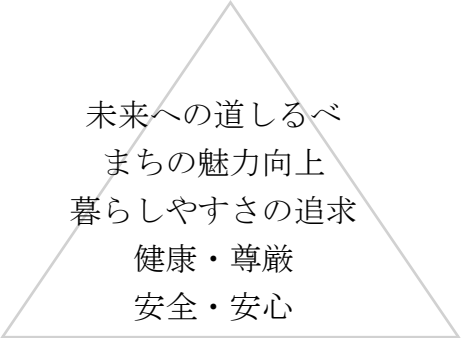
人口 7.2万人

面積 14.33km²

日本一の毛布のまち

中古車輸出全国3位

: 市方針 :



未来への道しるべ
まちの魅力向上
暮らしやすさの追求
健康・尊厳
安全・安心

駅前に図書館「シープラ」建設、のべ来場者数100万人突破！

<未病予防対策>

★全国初！ 官民連携のデトックス拠点“ナノミストサウナ”設置

<農と食を守る取り組み>

！？なぜ米騒動が起こったのか

- ・日本人のコメの消費量の減少
- ・減反政策
- ・農業従事者平均年齢70才
- ・農業所得の低さ
- ・流通構造が複雑



作付面積の縮小



米不足！！

*全国的に米不足と言われていた2024年には過去最大の米の輸出货量



道徳なき経済＝米不足は人災である

<安心・安全な食料の確保>

- ① 市民の食を守る
- ② 食べることは健康につながる



医食同減

全国各地を歩き回り自治体と連携協定を結ぶ。

年間計155トンの米を毎年市が購入している。

「ダイレクトサプライチェーン」と呼ばれる、中間業者を省くことで、買う側も売る側もWIN-WINとなる手法を用いることにより、農家の所得があがる。

<医食同減を目指した給食改革>

：背景：

平成29年の国民医療費 約43兆円

*一人当たり33万9千円

市民の健康を促進するために健康推進条例を策定

- (1) 健康に関する学びの場の充実
- (2) 食育の推進
- (3) 健康状態の見える化
- (4) 健康や医療に関する多様な選択肢づくり

「人間は自然の一部である」

・・・子供の体の1/3は給食でできている



オーガニック給食を推進！

○お米はすべて金芽米

○塩は自然のもの、砂糖はきび砂糖

○トランス脂肪酸由来のものは極力使わない

・・・給食でパンが出るのは月に1回だけ

金芽米の特徴

- ・無洗米
- ・うまみ成分が強い
- ・玄米の栄養アップ、糖質カット

<その他取り組み>

「マタニティ応援プロジェクト」

妊婦の方に申請していただくと、毎月10キロの金芽米を出産予定月まで無料配布！！

(結果)

- ・妊娠中の体調不良が少なくなった
- ・出生した赤ちゃんの体重が増えた
- ・未熟児の割合が低下

<今後の見通し>

安定生産、安定確保の為、官官民の連携により、食の安全を確保していく

例：日本全国の自治体が月1回給食を米食にすると、年間6800トン、売り上げにして40億円の増により、農家が助かるという試算がでている。

また、古米の概念をなくし、熟成保管技術の普及により熟成米を増やすことで、生産調整をすることなく、毎年安定したおいしいお米を提供することができる。

<所感>

泉大津市長の食と健康に関する講義を聞き、とても勉強になりました。泉大津市は、農地面積が2%ほどしかなく、お米を各地から購入する形をとっておられます。特に給食等、需要が安定していると、生産者もいらぬ心配をしなくていいので、給食のお米を、他市の自治体と連携協定を結ぶという取り組みはいいなと思いました。小野市はお米を沢山作っていますので、逆に泉大津市のようなお米を消費する自治体と連携をして、生産者の生活を守っていくということは一つの手法としていいことだなと思っています。多少高くはなっても、今健康の為にいいとされるオーガニック米の生産にも力を入れていけたらいいなと感じました。

1 日目講義

生成 AI は議会をどう変えるか？

～住民参加と政策力教科の観点から～

早稲田大学デモクラシー創造研究所 山内健輔

<研修内容>

～導入～

生成 AI は驚くべき進化をとげている

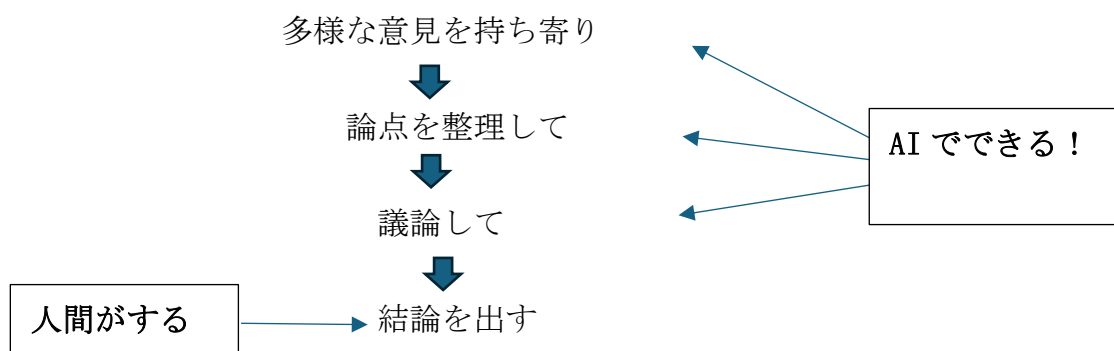
(例) 浜田市議会

- ・・・生成 AI を利用することで、「会議録作成」の業務改善に成功
会議録作成に丸二日かかっていたものが半年でできるようになる。

(例) 墨田区議会

- ・・・特定のテーマについて調査をする際の論点整理で、各会派から出されるシートをもとに意見の集約・提言の素案を AI で作成することで、時間短縮だけではなく、客観的に意見の引用ができ、客観性を保つことができる。

<AI の活用方法>



<生成 AI は議会をどう変えるか？>

市民からみた「地方議会・地方議員の印象」

- ・地方議会は何をしているのか分からない・・・約 57%
- ・あってもなくても同じ・・・約 25%

この現状をどう打開していくか！

これからの AI 時代は「情報共有」がますます重要になる！AI が発達すればするほど、議会は住民からますます遠ざかる

(情報の取り方の変化)

従来：検索したいことやワードを直接入力して回答を得る

- ・・・特定の答えを探し出す

現在：キーワードだけ入れることで AI がより詳しい新しい情報を提供してくれる・・・探していなかった答えにも出会える



議会にとってはチャンス！！

検索エンジンのなかに会議録や情報を入れておくと、住民がキーワードを入力するだけで、簡単に市の情報を取得することが出来る。

⇒議会での議論の内容等が住民に伝わりやすくなる。

AI とのチャットの中で、会話の中で、AI に紹介される形で自然に議会情報にアクセスできるようになる。

・人々の情報収集は、検索エンジンで特定の情報を探す形から、まず生成 AI に聞く形へ変わっている。これは議会にとってチャンスでもあるので、課題としては生成 AI が参照できるように公開情報をしっかりと発信していくことが必要である。

<住民と議会との関係を変える・・・声の届け方>

議会はこれまで、様々な方法で住民の意見を聞いてきた

- ・議会報告会
- ・意見交換会
- ・個別相談
- ・アンケート
- ・パブリックコメント など

しかし、これらの取り組みには限界がある。参加できる人が限られていたり、時間の制約があったり、意見の集約が難しかったり・・・

・・・さらに、従来の聞き方では、住民に意見を求めても、答えやすい問いになっていないことが多い。

- ・どこを読めばいいか分からない
- ・何についての意見を言えばいいのか分からない
- ・前提知識がないと意見が言えない 等

その結果意見を言うのをあきらめるという悪循環に陥りやすい

意見が集まらないのは、住民に意見がないからではなく聞き方に問題があるのでは！

ブロードリスニングという手法を用いる

＊AI などのデジタル技術を活用し、SNS やアンケートに寄せられた膨大な大衆の声を効率的に収集・要約・可視化する手法

住民

- ・住民が意見表明するチャンネルが増える
- ・従来の参加型が苦手だった人が興味を示すようになる

議会

- ・議会の政策形成サイクルに住民の声を反映できる
- ・これまでエピソードベースだった（1 人から聞いた困りごと）を個別要望ではなく、政策論点に変えることも可能になる

<政策力を強化するために>

「ペルソナ」で仮説をたてる

＊年齢、家族構成、職業、居住地域、生活環境、価値観、関心、困りごとなどを組み合わせた、具体的な架空の人物像のこと

政策を検討する際、「一般的な住民」を想定するのではなく、異なる事情や背景をもつ住民の立場から考えるために、ペルソナを用いると、深まった議論ができる。例えば、「地方都市で子どもを育てながら働く 1 人親」「運転免許を返納した郊外在住の高齢者」など、具体的な背景をもつ人物を想定することが大切。そのペルソナを用いて生成 AI に役割を与えてやることで、想定される反応や懸念をシュミレーションすることができる。

<AI 時代の難しさ>

AI にはできないこと

- (1) ブロードリスニングによって住民の声を聞くことができても、すべてを採用することができない
- (2) 情報は増えても、どの情報を重視するかを AI は決めてくれない
- (3) ペルソナによって異なる視点で考えることができても、誰の不利益をどこまで許容するかまでは決めてくれない



これまで以上に「価値選択」、「価値判断」が求められるようになる
テクノロジーで便利になっていく＝人間に要求される水準が上がっている

<所感>

生成 AI の活用方法について学ぶことができ、とても参考になりました。今の時代、スマホ 1 つであらゆる情報が手に入ります。前までは、特定の調べたいことだけを調べていたのが、AI がそれ以外の、それ以上の情報を与えてくれるのが今のネット社会です。これは逆にチャンスでもあり、今まで知りうることのできなかった情報に出会えるチャンスがいっぱいあるので、議会としてもそこに入り込むことができたなら、市民にもっと議

会のこと自分の市のことを知ってもらうことができるのではと思いました。また、生成 AI は、意見の集約、要点整理に長けているので、そのよい部分はもっと利用できたらと思いました。ただやはり最後に決断するのは人間の仕事です。情報過多な時代だからこそ、しっかりとした倫理観、価値観をもつことが今以上に求められるようになるのではと感じました。

2 日目 「公民連携で地域を再生する
～オガールが実践してきた協働のデザイン」
岡崎正信

樹幹率 30%を目指す 樹木が陰を作っている面積
いくらいいいものを作っても、暑いと人はでてこない。

事業の 3 要素

・不動産の価値		エリアの価値増
・建設コスト	爆上がり	建設マネジメント
・金利	爆上がり	共感資金

日本の元気な都市でも再開発がとん挫している現状
維持管理費ばかりかかるものを再考する必要がある

<実践してきたこと 公共空間・公共事業のリノベーション>

岩手県紫波町

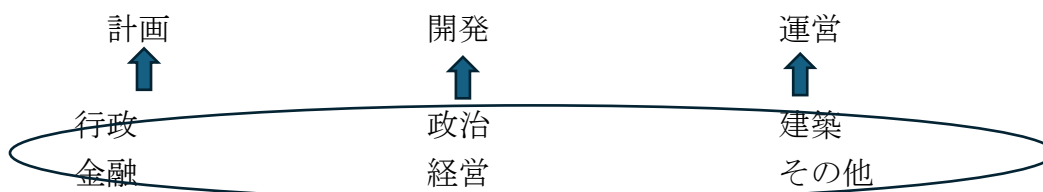
人口 33,000 人 主な産業 農業

昼夜間人口比率 岩手県最低

「エージェント型 PPP のプロセス」

地域の実情に沿った事業提案、市場に応じて軌道修正を図り、「適切な仕様」を官民が共に探っていくプロセス

公民連携を進めるうえでの政治、行政、金融、経営など複数分野から多角的な視点を持つ

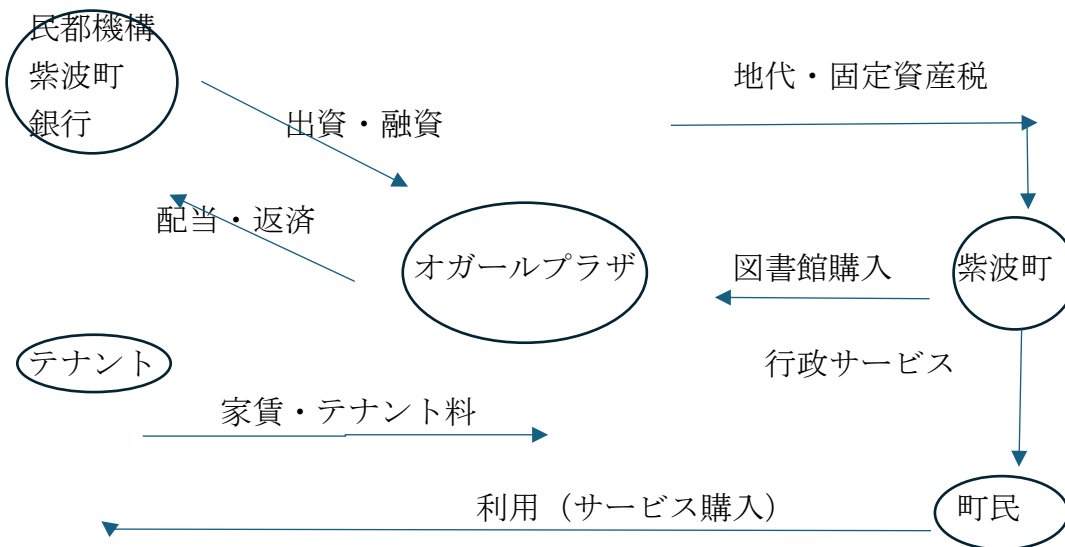


公共施設からまちづくりを考える

優れた公共施設の周辺エリアの不動産は人気が出て価格は上昇する
グレた公共施設は輝かない

荒れ果てた何もない場所に、オガールを建設（借金33億円）

「オガールプラザストラクチャー」



既存マーケットでは埋没してしまう
ピンホールマーケティング

ライバルがいない分野にとがることによって個性を出していく
マーケットが大きい分野は一等地でやる
マーケットが少ない分野を地方で

バレーボールアリーナを建設

竜神日本がバレーをしにきた

東京オリンピックの合宿地として誘致成功

<オガールセンター>

子育て支援コンテンツをメインに、認定保育園、小児科、病児保育、カフェを併設

<オガールタウン>

全57区画

“仕事があるから人が来るではなく、いい暮らしがあるから人は住む”
企業誘致が実現すれば人が来るという考え方は、人口が増える状況下において成り立つ
ものであり、現代の人口減少においてなりたたない。

公共事業の3要素

税収減

経営の導入

建設・維持管理コスト増

造らず借りる

人材難

AI と民間登用

＜これからの公民連携事業の進め方＞

金融機関も含めた経営するものが、構想企画から参画し、経営できるものを設計し、建設し、そして経営していくからこそ事業の継続可能性が高まる

公権力に競争をもたせる

公権力とはもともと秩序を守るために必要な力、それは市民自らが作り出し、使いこなすものという考え方。一方で、権力が大きくなると上から押し付けられる危険性もある。最終的には公権力を上手に使いこなす人が必要。その人材こそが将来の不確実性を少しでも減らす存在になる。

＜所感＞

まちを活性化させる為には、官民連携がとても大切になってきます。官ができることには限界があり、また、民ができることにも限界があります。両者が力を合わせることで、より、素晴らしい施策ができるのだという成功体験を聞くことができ、すごく参考になりました。新しく事業をするにも、建設コストの増大や、金利の上昇により、比較的都会でも計画が頓挫している現状で、新しいことを始めるということはとてもハードルは高いですが、どういうまちにしたいかという長期的なコンセプトをしっかりと持ち、総合的に判断できる力を身に付けていかないといけないと感じました。また、同時に既存の施設の維持管理についても考えていかないといけない時期なのだと痛感しました。

2日目 「政策議会の質問力」

法政大学法学部政治学科 土山希美枝

＜内容＞

たかが一般質問

- ・ 地方自治法にはない仕組み
- ・ 議員のパフォーマンスより議会改革

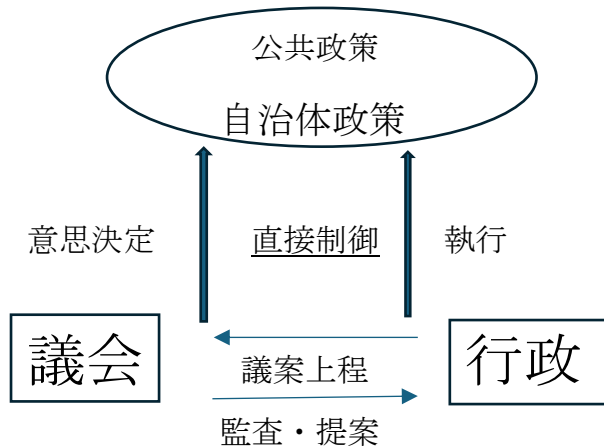
されど一般質問

- ・ 政治家であり議会の一員である議員の知見の活動の集約
- ・ まちの政策課題の争点的

1. 政策議会としての議会

自治体はなんのためにあるのか？

- ・市民が必要不可欠とする政策制度を整備するための機構
 - ・議会・長は政策制度を「よく整備する」ため、異なる権限を与えられた機構
- 政策・制度を「よりよく」整備するためには
- ・なにが「必要不可欠」なのか
 - ・どれが「効果が高い政策」なのか
 - ・「正解」はないから、「決断」という契機が重要になる



2. 一般質問の機能と制度

監査機能（監査質問）

- ・自治体運営や事業の執行について、その状況効果などを検証し、評価し、執行機関がなすべきことを適切になしているかをチェックする

政策提案機能（政策提案質問）

- ・政策について、その在り方について改善や廃止も含めて提起する機能
- ・新規の事業でなくとも、現状を変化させることは行政にとってコストが高い。それを超える「正当性」が必要

3. 一般質問がなぜ機能しないのか？

- ・公表数字を確認するだけ
- ・論点を入れすぎてぼけてしまった
- ・個別すぎる
- ・根拠のない批判
- ・隣の芝は青い質問
- ・国や県の事業で市が関知できない質問

「行政は間違わない」という幻想を前提にすると、議会は追認機関になりかねない。

3. 一般質問を機能させる為に

(1) 論点を整理して磨こう

- ・一般質問は「事実」―「分析」―「主張」で構成される

事実（現状、問題状況）

意見（分析＝事実から言えること）

意見（主張＝言いたいこと）

- ・論点で「これだけは引き出したい」点を確認する。質問の「戦略」を考える

(2) <争点>を事実でとらえ分析するための情報収集

「困りごと」の当事者、課題の現場を特定する

- ・現場で「聴く」ことの重要性
- ・議員の2つの現場①課題の現場②その課題に対応するはずの行政の現場

政策情報の3類型

① 争点情報：ニュース的<状況情報>、ウォッチャー型情報

② 基礎情報：調査・統計の<分析情報>、行政資料型情報

③ 専門情報：政策開発に必要な専門的知見<技術情報>、個別資料型

＊参考：：Dfile、レファレンス協同データベース

(3)一般質問の問いだし方

答弁調整をどこまでやるか

- ・「何が問題」なのかを共通認識する必要がある。
- ・「まちの課題」をめぐる議論を通じて「納得」を引き出す

(4) つまりいい「一般質問」とはどんな質問か？

監査機能、政策提案機能を果たしているか

- ・何が問題なのかが明確で、その論点提起に「納得」させられるか
- ・問題を「問題だ」といえる、必要な情報が入っているか
- ・政策提案が具体的か、わがまちの状況を反映しているか
- ・聞いて分かりやすい＝伝わりやすいか

<所感>

土山先生の講義は今年、東京での研修で聞いた内容ではありましたが、新たな気づきもあり、とても勉強になりました。よりよいまちづくりのためには、行政と議会が両輪となり、何が求められ、何が不必要であるのかをしっかりと見極めていかなければなりません。その中で一般質問というのはとても大切な役割を果たしています。現状を把握し、課題を洗い出し、解決策を提示することができる一般質問作りは、市政進展にとっても非常に重要だと感じました。